



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
 神に希望の錨をおろすなら
 すべては祝される

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
 カトリック那覇教区本部
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2025年3月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第796号 (3月号)

二〇二五年四旬節教皇メッセージ
希望をもってともに歩んでいきましよう

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

灰を受ける悔い改めの式をもってわたしたちは、今年の四旬節の旅を信仰と希望を胸に歩み始めます。母であり教師である教会は、神の恵みに心を開くようわたしを招いています。罪と死に打ち勝った主キリストの復活の勝利を、大きな喜びをもって祝えるようになるためです。聖パウロにこう叫ばせたようにです。「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか」(二コリント十五・54、55)。

まさしく、十字架にかけられ復活したイエス・キリストこそ、わたしたちの信仰の中心であり、御父の最大の約束を信じるわたしたちの希望の保証です。そして、御父の愛する子キリストにおいて、約束はすでに実現しています。それは永遠のいのちです(ヨハネ十・28、十七・3参照)。

聖年の恵みにあずかる中でこの四旬節に、「希望をもってともに歩む」ことの意味について、また、いつくしみをもって神がわたしたち皆に一人一人としても共同体としても呼びかけておられる回心の招きについて、少し考えてみたいと思います。

初めは、「歩む」についてです。聖年のモットー「希望の巡礼者」が思い起こさせるのは、出エジプト記に描かれている、約束の地へと向かうイスラエルの民の長い旅路です。奴隷状態から自由へのこの険しい道のお望みになり導かれたのは、「ご自分の民を愛し、その民につねに忠実であられる主です。聖書の出エジプトを考えるとき、現代にあつて、自分や愛する家族のよ

れようとして旅立つ兄弟姉妹のことを思わずにはいられません。ここで、回心の最初の呼びかけが生まれます。わたしたちのだれもが旅する者なのですから、だれもが自らに問わなければなりません。―こうした現状に自分は問

いただされていくだろうか。道を進んでいくのか、それとも恐れや絶望から硬直して動けなくなっているのか、楽な場所から抜け出せなくなっているのか、罪を犯したり自ららの尊厳を貶めたりする状況から離れる道を探しているだろうか。―移民や移住者の具体的な現実に向き合い、それに実際にかかわって、御父の家へと向かうよ



教皇フランシスコ

ち何を求めているかを見いだすことは、四旬節のよい鍛錬となるでしょう。それは、旅する者皆にとって、よい「意識の糾明」です。

第二は、「ともに」歩むについてです。ともに歩む、シノドス的であること、これが教会の使命です。キリスト者は決して孤高の旅人ではなく、ともに旅するよう呼ばれています。聖霊は、自分自身から出て神と兄弟姉妹に向かうよう、決して自分自身を閉じないよう、突き動かしておられます。ともに歩むということは、神の子としてともに有する尊厳を基盤とした一致の作り手となるということを意味します。それは、人を踏みつけたり押しつけた

り、ねたんだりうわべの振る舞いをしたりせず、だれも置き去りにしたり疎外感を覚えさせたりせずに、肩を並べて歩むということです(ガラテヤ三・26、28参照)。愛と忍耐をもって互いに耳を傾け合いながら、同じ方向に向かって、同じゴールを目指して、歩んでゆきましょう。

この四旬節、神がわたしたちに求めるのは、生活において、家庭で、職場で、小教区や諸共同体において、他者とともに歩んでいるか、その声に耳を傾けられているか、自己中心的になりたり自分の必要だけを考えたという誘惑に屈せずにいられているかということです。神の国のため、司教として、司祭として、奉獻生活者として、信徒として、他者と協力して働くことができていくか、主のみ前で自らに問うてみましよう。身近な人に対して、遠くの人に対して、具体的な振る舞いをもって受け入れる態度を示せているだろうか。他者が自分も共同体の一員と感ぜられるようにできているだろうか、社会の周縁に置き去りにしてはいないだろうか。これが回心への第二の呼びかけ、つまりシノダリティへの転換です。

第三は、約束に対する「希望をもって」とともに歩むについてです。希望は欺かない(ローマ五・5参照)―、この聖年の中心メッセージが、復活の勝利へ向けた四旬節の歩みの展望となりま

すように。教皇ベネディクト十六世が回勅『希望による救い』で教えるところ、人間は無条件の愛を必要としています。人間はこういわせてくれる確信を必要としています。『死も、いのちのもの、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引

き離すことはできないのです』(ローマ八・38、39)。「わたしたちの愛であり希望であるキリストは復活し、栄光のうちに、生きて、治めておられます。死は勝利となり、キリスト者の信仰と大いなる希望は、キリストの復活にあるのです。」

ですから回心への第三の呼びかけは、希望への、神と神の大いなる約束である永遠のいのちを信頼することへの招きです。自らに問いましよう。主はわたしの罪をゆるしてくださると確信しているだろうか。それとも、自分を救えるかのように振る舞っているのではないだろうか。救いを切望し、それを求めて神の助けを祈っているだろうか。歴史の出来事を解釈できるように、正義と兄弟愛、共通の家のケアに務めさせ、だれ一人取り残されることのないようにする希望を、具体的に抱いているだろうか。

姉妹の皆さん、兄弟の皆さん、イエス・キリストにおいて示される神の愛によって、わたしたちは欺くことのない希望(ローマ五・5参照)のうちに置かれていきます。希望は「魂にとつて頼りになる、安定したいかり」です。その希望のうちに教会は、「すべての人が救われるよう」(一テモテ二・4)祈り、天の栄光の中で花婿キリストと一つに結ばれることを待ち望みます。アヴィラの聖テレジアの祈りはこうです。「希望しなさい、希望するのです。あなたはその日、その時を知らないのです。よくよく目を覚ましていなさい。あなたが確かなことを疑い、短い時を長く感じている間に、すべては矢のように過ぎ去るからです。」(『神への叫び』十五・3)。

希望の母であるおとめマリアが、わたしたちのために執り成し、四旬節の歩みとともに歩んでくださいま

2025年2月11日 教区の日 HIGHLIGHTS OF THE DIOCESE DAY 2025



結婚 50 周年を迎えた方々
Celebrating 50th Wedding Anniversaries



叙階と修道誓願の記念
Priestly and Religious Anniversaries



ドミニコ宣教修道女会への感謝
Gratitude to the Service given by the Dominican Sisters.



教区の司教と司祭団
Bishop Wayne together with Emeritus Bp. Oshikawa and priests of the diocese.



与那原のシスター達
Franciscan Sisters of the Immaculate Heart of Mary - Yonabaru Convent



幕開けの踊り「かぎやで風」
Opening dance of the celebration.



金婚式の山田さんと仲間たちの演奏
Mr. Yamada one of the 50th celebrant couple rendering a song for all together with Mr. Nakasone.



教区聖歌隊のお祝いの歌声
The Diocese Choir rendering. songs for the celebration.

2025年2月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2025年2月4日(火) 10:00～12:00 於・安里教区センター

出席者：ウェイン司教、押川名誉司教、クレーバー神父、ナビーン神父、デニス神父、マキシム神父、サニー神父、リカルド神父、ロドニー神父、ボスコ神父、フランシス神父、ヨアキム神父、ブイ神父、マイケル神父、ピーター・チェ神父、藤澤神父、古川神父、石垣助祭、新垣助祭、マーシーさん、津波古聡、新田選。

オブザーバー：濱崎神父。

司会は古川神父が担当、開式の祈りはウェイン司教が担当した。

1. 報告及び連絡事項

- ・ 前回(1月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・ 出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - －ウェイン司教、2/17～21、第3回臨時司教総会のため東京、潮見へ。
 - －ボスコ神父、2/13～3/13、休暇でベトナムへ。
- ・ 司祭生涯養成ミンダナオ体験学習に参加したボスコ神父より、体験学習の報告が行われた。名古屋教区松浦司教と福岡教区アベイヤ司教、補佐役の仙台教区ガクタン司教のもと、14名の司祭たちが生涯養成に参加。様々な体験と学習をしてきたことが報告された。
- ・ 津波古事務局長から、1月13日に開催された教区会計研修会の報告が行われた。16小教区から主任司祭、信徒代表、会計担当者の3人の方々にご参加いただき、疑問、質問にお答えしながら研修会を行ったことが報告された。今後も分からない点や疑問に感じたことは必ず教区に問い合わせを頂き、自己判断して処理することがないように注意が促された。
- ・ 「聖年のミサ」についてウェイン司教から説明があり、各教区にはこの特別な「聖年ミサ式次第」が2冊づつしか配布されていないので、各小教区での取り組みで必要であれば、中央協議会のHPからダウンロードして活用されるよう要請があった。また、「聖年の祈り」のカードが各小教区に配布されているが、どのように活用されているかについて各小教区の司祭たちに聞き取りが行われた。
- ・ ウェイン司教から、サンパウロ大司教区の赤嶺大司教一行から沖縄訪問の知らせがあり、急なことで対応に苦慮したが、押川名誉司教や安里教会主任のフランシス神父とも相談して、2月16日(日)に安里教会で主日のミサを、ウェイン司教、押川名誉司教も一緒に共同司式して主日のミサを行い、ミサ後、歓迎会でおもてなしする予定であることが報告された。
- ・ その他、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」のポスターが届いているので、3月21日の「祈りと償いの日」に向けて掲示されるよう要請が行われた。
- ・ 司祭たちには休暇や研修予定の報告は前もって司教と調整されるよう要請があった。

2. 審議事項

- ・ 2/11の「教区の日」について、担当のボスコ神父、ブイ神父、フランシス神父から準備状況と式次第の確認、「教区の日」にお祝いされる司祭、修道者と信徒たちの報告が行われた。
- ・ 復活祭前に行われている「聖香油ミサ」について、開式時間の見直しの意見が寄せられており、次回の会議で他の意見も持ち寄り検討することとした。
- ・ 「教区広報」について、担当者一人に業務が集中して滞っているので、担当部署の再編や見直しをはかり改善していく方向で考えたい。教区のHPの見直しも含め、検討することが確認された。
- ・ ウェイン司教の予定について、マーシーさんから報告が行われた。2/8(土)カトリック高校卒業式。2/9、安里教会訪問。2/11、教区の日、安里教会。2/16、サンパウロ教区赤嶺大司教一行訪問団との共同司式ミサ、安里教会。
- ・ 2024年度の小教区の司祭生活分担金について、各小教区は2月中に教区宛振込されるよう要請が行われた。
- ・ 2/11の教区の日に向け、典礼担当のボスコ神父から共同祈願の担当小教区への要請と、3月と4月の司祭会議前の聖体降福式の主式者の確認、4月16日の聖香油ミサにおける、油を捧持する担当の司祭への確認と要請が行われた。
- ・ 教区の日合同祝賀会での記念周年について、理解の統一が図られた。今後は、叙階と終生誓願については25・50・75周年を祝い、結婚については50・75周年を祝うこととすることが、異議なく確認された。

※次回司祭助祭拡大会議は3月4日(火) 午前10時から、安里の教区センターで開催される。

2025年2月25日 承認：ウェイン・フランシス・パント司教 記録：新田 選



希望の巡礼者として、 聖母マリアと聖ヨセフの 模範に習おう

ヨアキム・ホアイ神父
宮古島平良教会 主任司祭



私たちは聖年を迎えています。聖年は神様の愛と恵みを再確認して心を新たにすることを期望しています。この時期、私たちは巡礼者のように、信仰の旅路を歩んでいます。その旅路において、聖母マリアと聖ヨセフの生き方は私達に大きな模範を示してくれています。そのことを通して、二人の信仰と従順な生き方について黙想したいと思います。

まず、聖母マリアについてです。ルカの福音によって、天使ガブリエルがマリアに現れ、神

様の計画を告げた時、マリアはとても驚き、心に恐れを感じました。しかし、マリアは「わたしは主のはしためです。お言葉どおりになりますように」と答えました(ルカ1:38)。この短い言葉に、マリアの謙虚な心と神様に対する深い信頼が込められています。マリアは自分の弱さを認めながらも、神様の計画に従いました。マリアは神様の言葉を信じ、全てを委ねる心の強

さを持つていました。聖母は困難な状況にあっても、希望の光を見失わず、信仰によって日々を生き抜く強さを示されました。この姿は私たちが困難や不安に直面した時、神様に信頼する大切さを教えてくれます。

さらに、マリアの「マニフィカト」は、神の恵みに満ちた賛美の詩として、今日の巡礼者たちにとっても大きな励ましとなっています。マリアは、エリザベトとの出会いの中で、神が低い身分の者にこそ大いなる恵みを賜るという約束を実感し、その喜びと感謝を惜しみなく表現しました。マリアは神の御言葉に従いながら、内面から湧き上がる感謝と賛美をもって生きるべき姿を示しています。この生き方は私たちの日々の生活の中で模範となり励ましてくれます。

おいて、陰ながらも重要な役割を果たしました。たとえば、エジプトへの避難では、聖ヨセフの判断と従順で幼子イエスを守る大いなる行動が良い結果に繋がりました。このような姿は、日常の中で見えない働きであっても、神の言葉に従い続けることと祝福がもたらされるということです。私たちが示しています。私たちが家庭や仕事、社会の中で静かでも、しっかりと神様に従う姿勢の大切さを示しています(マタイ18:1-25)。

聖母マリアと聖ヨセフは、それぞれ違った役割を持っていますが、どちらも神様の御言葉に従い、謙虚に生きた人です。マリアは神様の奇跡の器となり、私たちに信仰と感謝の心を教えてくれます。ヨセフは、目立たないところで家族を支え、神様の保護を信じて行動しました。二人の生き方は私たちがどんな時でも神様に頼り、日々の生活の中で奇跡を見つけることができるといって希望を与えてくれます。

また、聖年の旅路は、ただ遠くの聖地へ行くことだけではありません。心の中で神様と対話し、御言葉に耳を傾けることも含まれます。私たちは、巡礼者として日々の生活の中で、神様

の愛に触れるチャンスを得ています。困難な時や悲しい時でも、マリアの「はい」という心と、ヨセフの従順な行いを思い出すことで、神様の守りと平和を感じることができるようでしょう。

聖年の今こそ、私たちは聖母マリアと聖ヨセフの模範に学びながら、自分自身の歩む道を見つめ直す機会としましょう。神様は私たち一人ひとりに特別な使命を与えてくださっています。小さな一歩であっても、神様の言葉に従い、謙虚な心で歩むならば、必ず大きな祝福が与えられます。マリアのように心を開き、ヨセフのように静かに従うことで、私たちはより強い信仰と平和を手に入れることができるのです。

最後に、聖書の言葉を胸に、私たち自身も希望の巡礼者としての道を進みましょう。

どんなに道が狭くて険しくとも、神様は常に私たちのそばにおられることを信じています。マリアとヨセフの生き方を思い出し、日々の生活の中で神様の愛と導きを感じながら、歩み続けることが大切です。神様のお守りと恵みが私たちの旅路に光を与え、希望に満ちた未来へと導いてくれることをしっかりと信じていきましょう。

私は四十二歳でアンデレ藤野哲夫となりました。そして四十九歳のとき埼玉県の公立中学校の校長の任に就きました。しかし、私が定年を迎えることはありませんでした。

二年目の年に、生徒のAさんが仲の良い友達のちよつとしたふざけ行為によって意識不明の危篤状態に陥り、大学病院に救急搬送されました。二、三日間という命の山場を越えたA

医の先生は私にAさんの事故直後の真つ黒に写った脳の写真を見せ、「これは奇跡です」と話しました。Aさんはさらに一か月後、登校するまでになったものの、記憶と手の動きに障害が残りました。

事態が落ち着きを見せるとともに、私に異変が起こり始めます。校長室に一人でいると、突如「いつ死のうか、いつ死のうか」という思いが私の体

ます。校長として二校目の学校で、ある教師に「校長先生が朝会で生徒に話したとき、なんのことを言っているのか、さっぱり分かりませんでした」と言われたことがあります。自覚がないまま、私の中で混乱が続いていたのです。

私は予定通りに五十七歳で依願退職し、その翌日に国際協力の人材を育成する学校に入學しました。二年

じたことがありました。この体験のうち「石垣島へ行って小中学生と一対一の学習を無料でやりたい」と私が言い出したとき、家族の者は誰も反対しませんでした。私の苦しみを知っていたからでしょう。

七十歳で島に来て七年が過ぎました。三年ほど前、『教会の祈り』を導きとして黙想することを日課にしている私は、それまで何度も読んでいたはずの詩編118の一節によって初めて照らし出されます。

「神はわたしを責められたのに、死に渡そうとはされなかった。」

そうだったのか。確かに私は自死を決心しようとしたことは一度もなかったのです。私には重すぎる荷(＝私自身)を共に担い、ささえてくださっていた方がいることに気づきませんでした。

このとき以来、私は自分の二十数年にわたる苦しみを家族以外の人にも話せるようになりました。私は贖われ、くびき(＝私自身)から解放され、自由にしていただきました。

イエスよ、「あなたの信仰があなたを救った」と私にも言っていただけなのでしょう。

たて軸よこ軸

あなたの信仰があなたを救った

石垣教会 アンデレ 藤野 哲夫

さんに「長期にわたり植物状態になる」という診断がなされました。私はずぐにも辞職したかったのですが、辞めるどころではありません。次から次へとやるべきことがあり、一つ一つに真正面から向き合おうとしました。

一か月後、Aさんは意識を回復します。婦長さんは私に「こんな患者さん、見たことない」と言い、主治

の真ん中から湧き上がってくるのです。ただ窓外の林を見つめて耐えることしかできませんでした。

Aさんは高校に進学しました。私の目標が決まります。Aさんが高校を卒業し就職するとき、私が現職でいれば何か役立つことがあるかもしれないと考えたのです。そこまでは職に留まろう。

でも、あの思いは不意に私を襲い

生になるとき、校長先生が「藤野さんはもう授業を受けなくてもよい」と言つて、私を海外実習に出してくれました。

一年間バプアニューギニアのラバウルの田舎に滞在して帰国後、私から

あのトラウマらしきものが消えたように思え、少し安堵していました。しかし、ある夜、寝静まった我が家の廊下の暗闇に一步踏み出したとき、あの絶望的な力が襲いかかってきました。あー、だめだ。

その後、児童養護施設で学習指導員として勤務したとき、反抗的な態度を取る子と学習していた際に、あたたかも黙想をしているかのように感

カリタス沖縄の活動報告 炊き出しボランティア活動

◆ 去る2月15日に行われたカリタス沖縄の炊き出しボランティア活動に、初めて参加させていただきました。当日の朝8時にカトリック文化センターに集合して、カリタス沖縄のボランティアスタッフと与那原修道院のシスター方と協力して豚丼を100食分作りました。野菜やお肉を切る担当や調理する担当、豚丼を器に入れる担当など分担して作業を行い、二時間弱で豚丼を100食分完成させました！作業の流れがとてもスムーズで女性スタッフとシスター方にはとても感謝しています。

その後、牧志公園に移動し生活困窮者支援のボランティア団体「ゆいまーるの会」のみなさんと合流して、10時30分からゆいまーるの会のみなさんと一緒に豚丼、お水、シスターの手作りクッキーなどを集まった方々に配布しました。食料を受け取った方から「ありがとう」と感謝の言葉をもらい、うれしい気持ちになったと同時に複雑な気持ちが残りました。物価高騰のあおりを受け、生活に困っている人や弱い立場の人が今後ますます厳しい生活を強いられることが予想されます。カトリック信者として今後わたしに何ができるのか？考えさせられる良い体験をすることができました。カリタス沖縄の活動の輪がもっともっと広がるよう、今後も微力ながら活動に参加していきたいと思ひます。

カトリックコザ教会 與那嶺 浩民

◆ 炊き出しに参加し、朝早くから皆さんと材料準備や盛り付けを行い、交流を深めながら完成させました。牧志公園に行く多くの方々も待っており、現実の厳しさを実感しました。私はタオルを配る担当で、多くの方々から感謝の言葉をもらい、

心が温かくなり参加して良かったと感じました。

今回は各教会の信者さんやゆいまーるの会の方々と共に参加しましたが、学生は私一人でした。この経験を教会の子供たちや同年代の人たちにも伝え分かち合い、若者を増やしたいです。

カトリック与那原教会 照喜名えみり

カリタス沖縄の今年度の活動

◆ 皆さんからの寄付金はカリタス沖縄の活動の大きな支えです。頂いた寄付金は食糧支援：ピーチクリーン・傾聴プログラム・クリスマス子供支援・炊き出しとカリタスジャパングローバルキャンペーンに役立てています。

寄付金 ………………

ドミニコ宣教修道女・聖フランシスコ姉妹御心会・教区平和委員会・真栄原教会・安里教会

個人寄付金：¥67,000 Together We イベント：¥61,250

食糧寄付 ………………

安里教会・真栄原教会・首里教会・個人の寄付といつもの読谷教会からミネラルウォーターを頂いています。

カリタス沖縄は困っている方々の支援とまた環境への取り組みを続けるために頑張りますので、皆さんのご支援とご協力をよろしくお願い致します。カリタスの愛の輪が広がりますように。神に感謝！

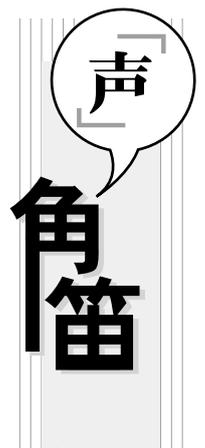
カリタス沖縄担当 クリストバル・マーシー

性虐待被害者のための祈りと償いの日

教皇フランシスコは、性加害の問題に教会全体が真摯に取り組み、その罪を認め、ゆるしを請い、また被害にあった方々の尊厳の回復のために尽くすよう求め、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けられました。日本の教会では、四旬節・第二金曜日を、この祈りと償いの日と定め、2025年にあっては、来る3月21日(金)がこの日にあたります。どうぞ、四旬節第二金曜日に、またはその近くの主日に、教皇様の意向に合わせ、司教団とともに、祈りをささげてくださいますようお願いいたします。

日本カトリック司教協議会 会長・菊地功枢機卿





与えられた縁と機会と

首里教会 新田 選

毎年、愛楽園ザベリオ教会では、その保護の聖人、聖フランシスコ・ザビエルの祝日である十二月三日に司教様の公式訪問が行われています。

昨年は十二月三日に「司祭助祭拡大会議」と日にちが重なったため、十二月五日に司教訪問が行われました。

会長の鹿川さんとお喋りしようと思いい、少し早く出かけたのですが、姿が見えません。先に来ていた信者さんに「鹿川さんはまだ来てないの?」と聞いたら、体調不良で入院されているとのこと、後でやって来た男性信者の平得さんと話をし、司教様の到着を待つて、一緒にミサに与りました。

その二週間後に鹿川さんの訃報が届き、再び愛楽園へと車を駆りました。通夜室で、司教訪問の時に話をしていた平得さんと会って、吃驚して駆け付けた旨を伝えました。そうして、年が明けた一月、今度は話をしていた平得さんの訃報が飛び込んできました。十二月、一月と立て続けです。結果、

愛楽園の男性信徒は皆さん旅立ってしまいましたが。教会は四人の女性信徒が残るのみとなりました。

二ヶ月続けて愛楽園での葬儀ミサに参列することになって、天久さんが築いてきた教会の歴史も、終焉の時を迎えているのだなと思えました。

結婚して子供が生まれ、子育てするなら自然豊かな所が良いかなと考えて名護へと住まいを移し、名護教会に所属するようになって、巡回教会であった愛楽園とも関わりを繋ぐことになりました。初代会長で、創立者でもある天久さんから、自分たちもだんだん年を取って来て、名護教会の信徒さんたちの助けが必要になってきているからと、定期的に名護教会の信徒たちと交流会を持つことになり、私も個人的に行き来するようになったのです。

話は中学一年の頃に遡ります。首里教会で侍者をしていた私は、ミサが終わって、主任の大城神父様と一緒に共同司式をされていた、福岡教区長の平田司教様を紹介されました。大城神父様が大神学校にいた時の指導司祭だったそう、気さくに自分の司教指輪を外して私に嵌め、「君も司祭職を目指したら良いね」と言ってくださったのです。その希望は叶いませんでしたが、後年、平田司教様だけでなく日

本の司教団が全員沖繩に来ていたことを知りました。

その目的は、当時の教皇パウロ六世がマニラを訪れ、司祭叙階に当たる学年のアジアの神学生達の叙階式を執り行うこととなり、その共同司式のため、日本の司教団がマニラへ行き、帰りに沖繩へ立ち寄ったのだそうです。

その時叙階された司祭の一人が故中重広神父様でした。そして、司教団が沖繩に立ち寄ったもう一つの理由、それは愛楽園教会の献堂式を執り行うことだったので。その時の写真が教区創立二十五周年記念誌の「はばたき」一二三ページに掲載されています。

中学生だった当時から五十年以上の時が流れてしまいました。

名護で十年余を過ごし、年上の子が中学生になるのを機に首里へ戻ってきました。現在は首里に所属しながら、これまで関わってきた教会との縁を大切に日々の奉仕を務めています。

人の歩みや命はいつか終焉を迎える時が来るでしょう。しかしながら、同時代を生き、関わった様々な事柄は、神さまの導きのうちにあり、信頼して歩むことが大切なのだろうと思えます。愛楽園で出会った先輩の信徒たち

は、これからも私を励まし、道を示し続けてくれるのだろうと思います。不治の病と言われ、聖書の時代から差別され見捨てられてきた人々が、キリストに出逢い、不屈の意志で指し示してくださいました。私にも通じていけたらと願う日々です。

カトリック文化センターからお知らせ

ミニのみの市開催

いつも文化センターをご利用いただきありがとうございます。当センターでは3月1日(土)~3月16日(日)までの期間、ミニのみの市を開催いたします。聖具、古本、衣類、生活雑貨等を用意しております。尚、当センターはカリタス沖繩の活動拠点ともなっていますので、売り上げの一部をカリタス沖繩への寄付とさせていただきます。皆様のご来店をお待ちしております。

〒900-0005 那覇市天久1-8-7 ☎098-868-4649(崎山・城間)

計報

◆安里教会

ペトロ 高司 雄良 様

二〇二五年二月二十日帰天

享年九十三

教区 NEWS 教会

ブラジル、サンパウロ 大司教区からの来客

ブラジル、サン・パウロ大司教区から、沖縄にルーツを持たれる赤嶺大司教と訪問団の一行が那覇教区を訪問。安里教会で、ウエイン司教、押川名誉司教と共に主日のミサを捧げて交流を深めた。



3月

一日黙想会へのご案内

指導司祭：フランシス神父
テーマ：聖書に親しむ
日時：2025年3月8日(土) 受付 9:30
講話：10:00～11:00
休憩：11:00～11:15
個人黙想：11:15～12:15 (沈黙の時間)
昼休み：12:15～13:00
分かち合い：13:00～14:30
ゆるしの秘跡：14:30～15:00
ミサ：15:00～16:00
※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円
聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会
連絡先：098-945-2354 098-945-8649

NPO 法人ぶどう園の会



訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
・営業時間 8:30～17:30
・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

那覇教区子どもと 女性の権利を擁護するデスク



相談窓口
☎098-863-2020
火・水・木
13:00～17:00



葬祭の やすらい 企画

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間 受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。
*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間 受付

てんごく
☎098-853-1059

